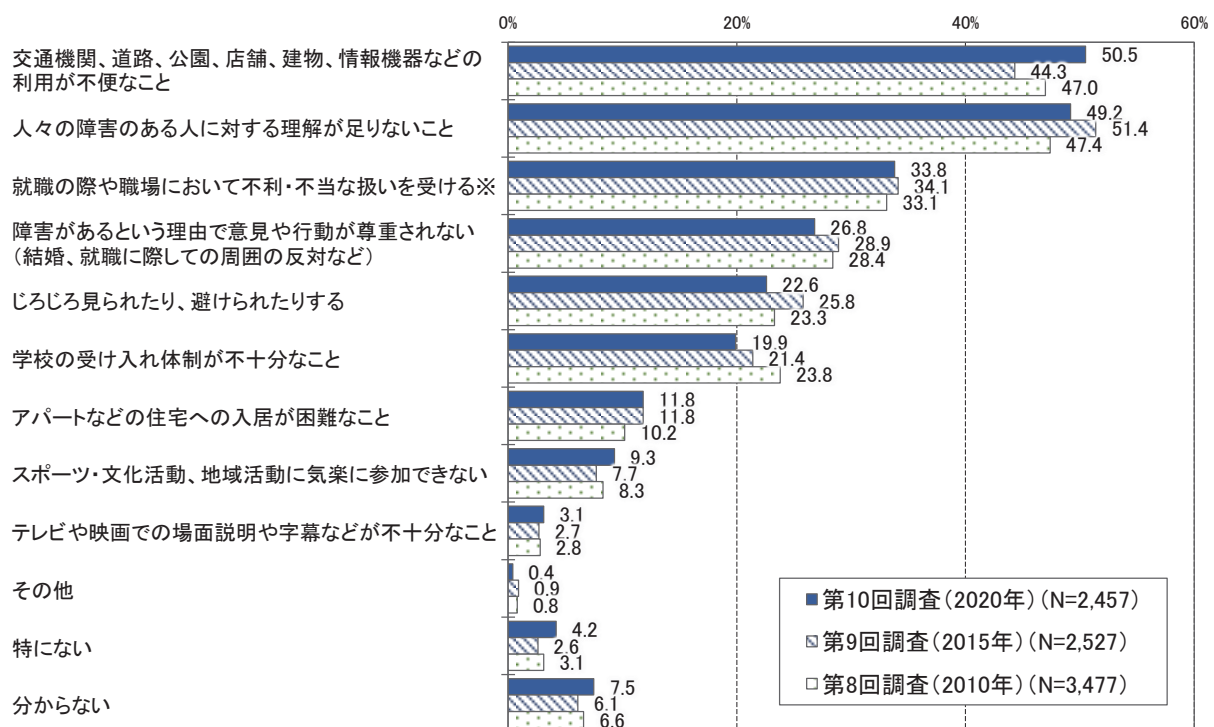


6 障害のある人の人権について

1. 障害のある人の人権が尊重されていないと思うこと

障害のある人の人権が尊重されていないと思うことについては、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様、「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」（今回 50.5%、前回 44.3%、前々回 47.0%）と「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」（今回 49.2%、前回 51.4%、前々回 47.4%）の2項目が他に比べて割合が高い傾向が続いている。なお、「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」は前回、前々回よりも割合が増加している。

図表 3-14 障害のある人の人権が尊重されていないと思うこと

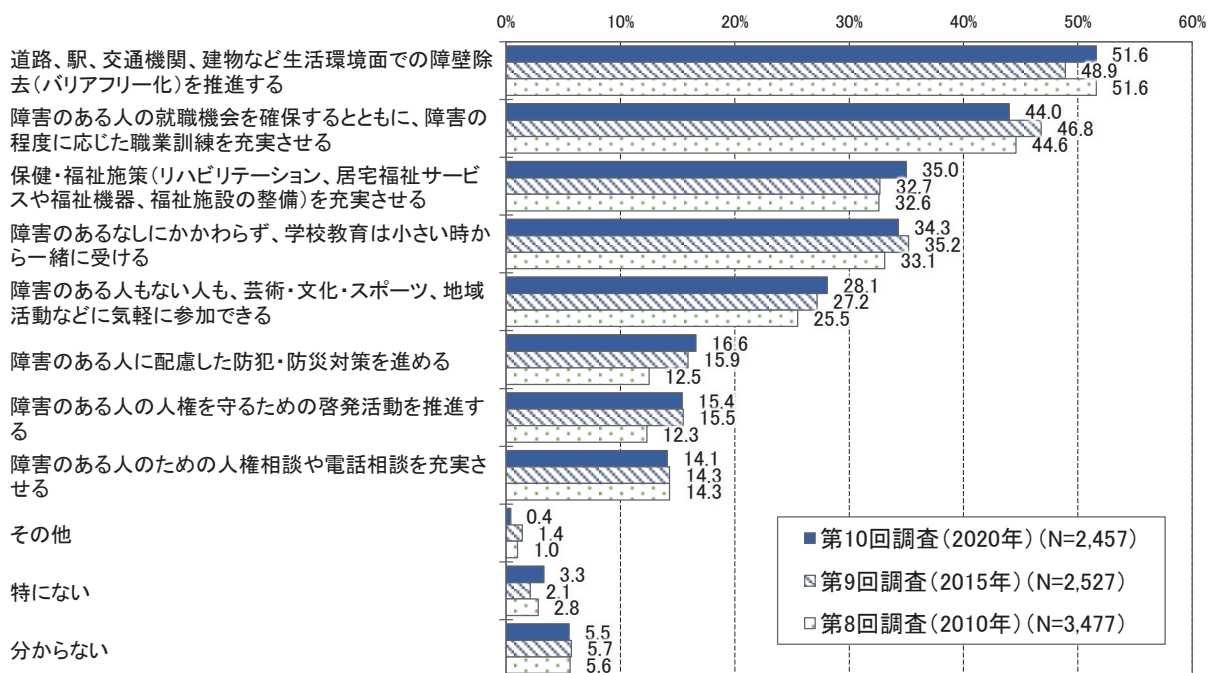


※ 今回(第10回)調査では、前回(第9回)調査まで「就職や職場で不利な扱いを受けること」だった選択肢を「就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける」に変更しています。

2. 障害のある人の人権を守るために必要だと思うこと

障害のある人の人権を守るために必要だと思うことについては、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様、「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」（今回 51.6%、前回 48.9%、前々回 51.6%）をあげた人の割合が最も高く、以下、「障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる」（今回 44.0%、前回 46.8%、前々回 44.6%）、「保健・福祉施策（リハビリテーション、居宅福祉サービスや福祉機器、福祉施設の整備）を充実させる」（今回 35.0%、前回 32.7%、前々回 32.6%）、「障害のあるなしにかかわらず、学校教育は小さい時から一緒に受ける」（今回 34.3%、前回 35.2%、前々回 33.1%）などの割合が高い傾向が続いている。

図表 3-15 障害のある人の人権を守るために必要だと思うこと

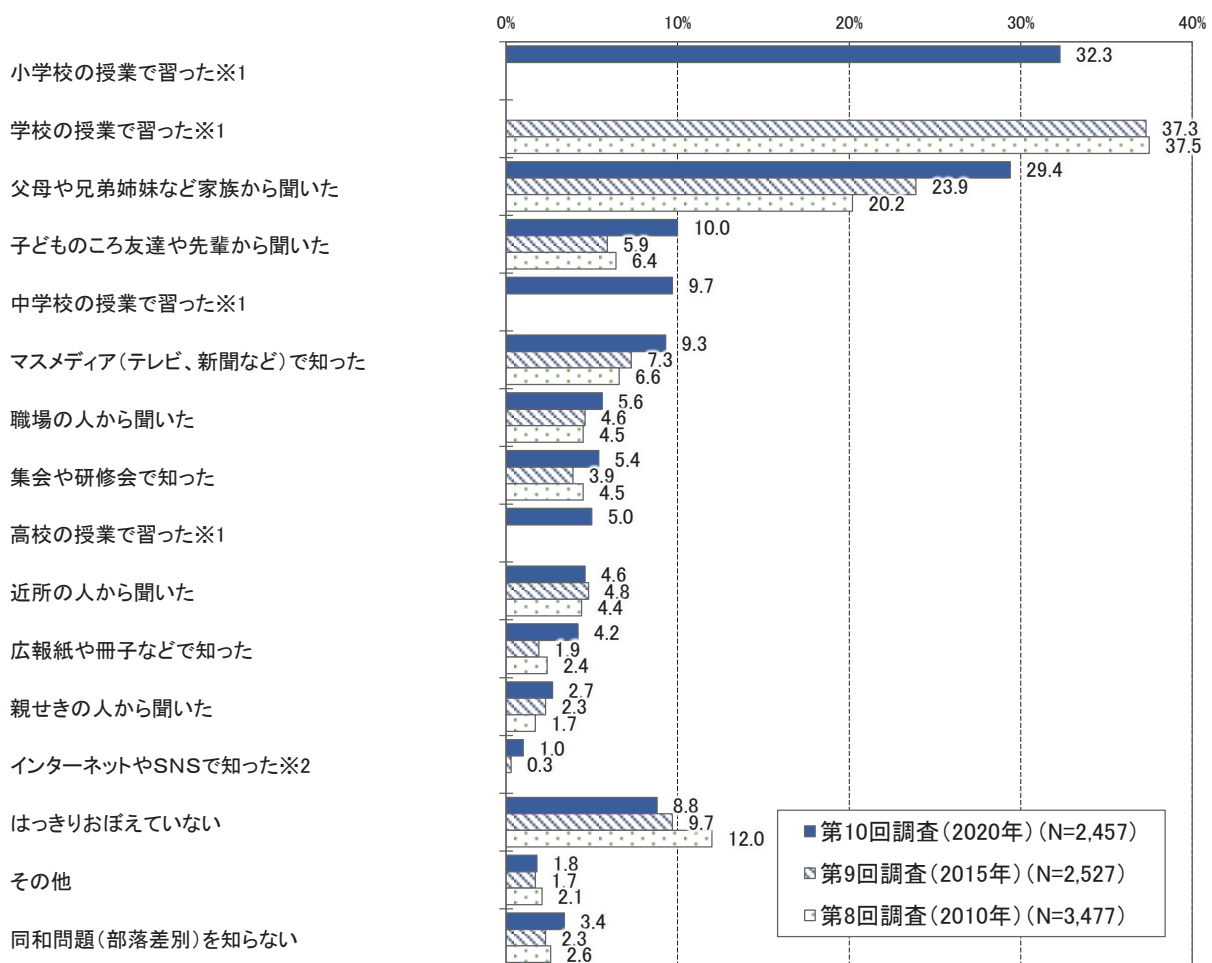


7 同和問題について

1. 同和問題を初めて知った経緯

同和問題を初めて知った経緯については、新たな選択肢の追加により、数値の増減を直接比較することはできないものの、「小学校の授業で習った」(32.3%)が、過去の調査結果で割合が高かった「学校の授業で習った」(前回37.3%、前々回37.5%)と同程度の割合になっていることからみて、過去の調査で同和問題を知るきっかけが学校の授業と答えていた人は、小学校での授業が多くを占めていたと思われる。なお、「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」(今回29.4%、前回23.9%、前々回20.2%)は前回、前々回よりも割合が増加している。

図表 3-16 同和問題を初めて知った経緯



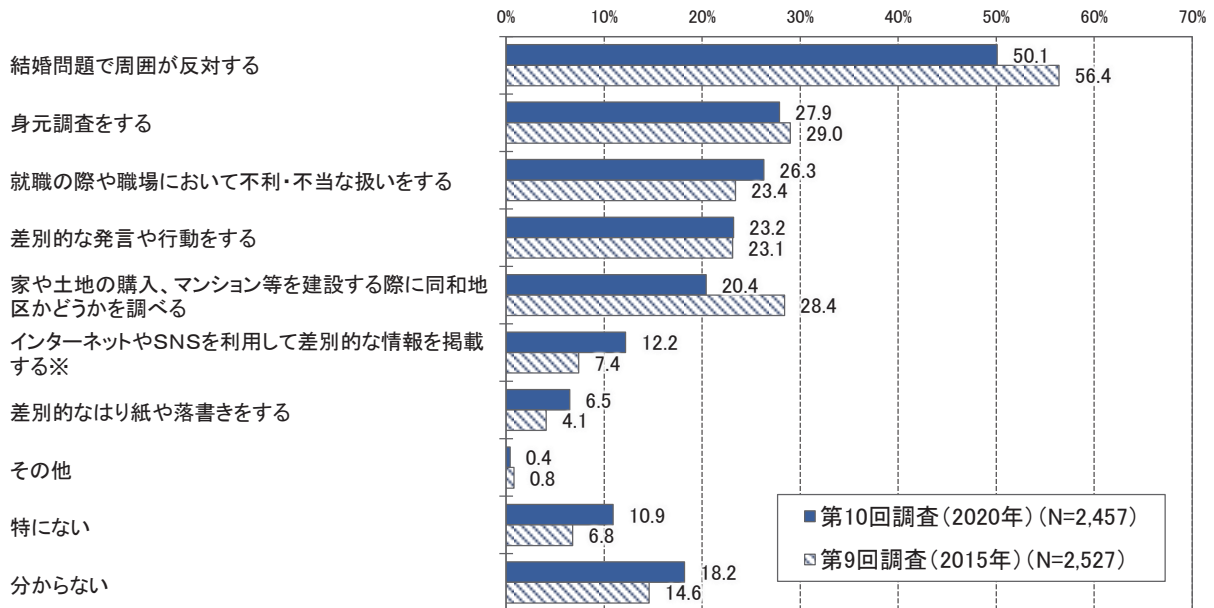
※1 今回(第10回)調査では、前回(第9回)調査まで「学校の授業で習った」だった選択肢を「小学校の授業で習った」「中学校の授業で習った」「高校の授業で習った」に変更しています。

※2 前回(第9回)調査から、「インターネットで知った」を追加しています。今回(第10回)調査では、前回(第9回)調査で「インターネットで知った」だった選択肢を「インターネットやSNSで知った」に変更しています。

2. 同和問題に関して人権が尊重されていないと思うこと

同和問題に関して人権が尊重されていないと思うことは、前回調査で新設された設問であるが、この結果について前回調査の結果と比較すると、「結婚問題で周囲が反対する」（今回 50.1%、前回 56.4%）が他に比べて抜きん出ているのは、前回と同様の傾向となっている。なお、「インターネットやSNSを利用して差別的な情報を掲載する」（今回 12.2%、前回 7.4%）は前回よりも割合が若干増加している。

図表 3-17 同和問題に関して人権が尊重されていないと思うこと

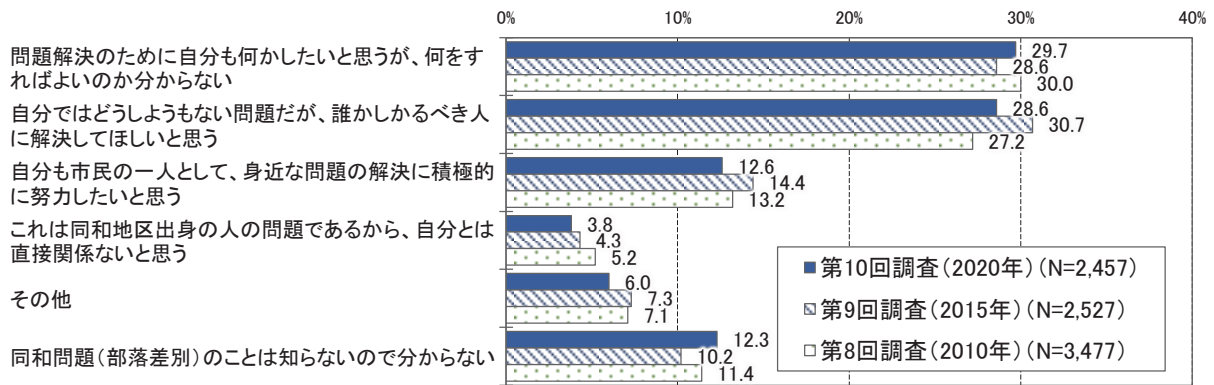


※ 今回(第10回)調査では、前回(第9回)調査で「インターネットを利用して差別的な情報を掲載する」だった選択肢を「インターネットやSNSを利用して差別的な情報を掲載する」に変更しています。

3. 同和問題の解決に対する考え

同和問題の解決に対する考えについては、割合の増減はあるものの、「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」（今回 29.7%、前回 28.6%、前々回 30.0%）、
「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」（今回 28.6%、前回 30.7%、前々回 27.2%）がそれぞれ 3 割程度、「同和問題（部落差別）のことは知らないで分からない」（今回 12.3%、前回 10.2%、前々回 11.4%）が 1 割程度となっている傾向は、過去の調査結果と同様となっている。

図表 3-18 同和問題の解決に対する考え

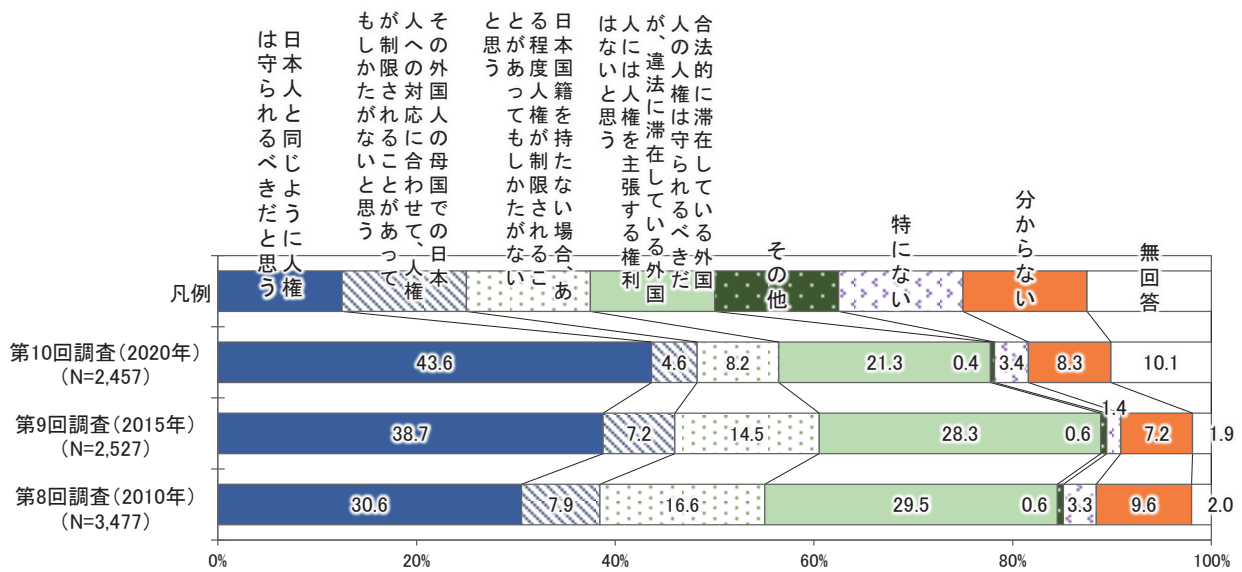


⑧ 日本に居住する外国人の人権について

1. 日本に居住する外国人の人権に関する考え

日本に居住する外国人の人権に関する考えについては、質問形式が過去の調査と同じく単一回答形式であることから、選択肢を複数選んだ回答者は集計処理上、無効扱いとしたところ、無回答者の割合が10.1%と、過去の調査結果に比べて高くなっている。このため、数値の増減を直接比較することはできないものの、「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」（今回43.6%、前回38.7%、前々回30.6%）が最も高くなっている傾向は、過去の調査結果と同様となっている。

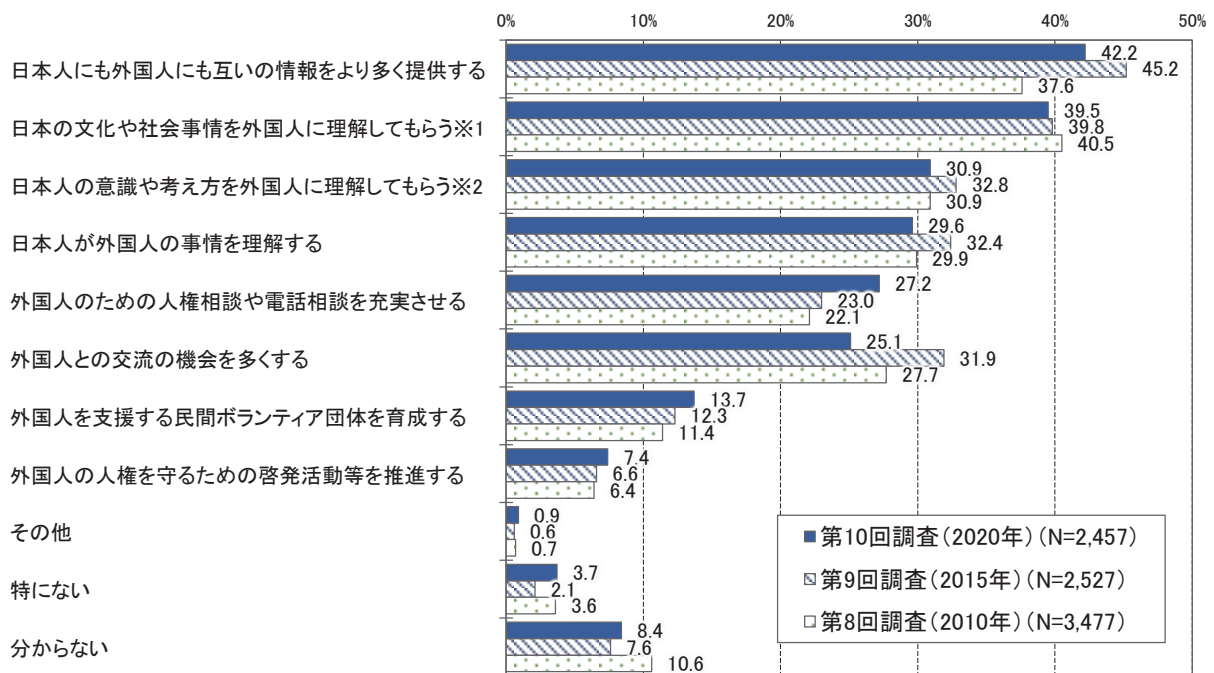
図表 3-19 日本に居住する外国人の人権に関する考え



2. 日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うこと

日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うことについては、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様、「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(今回 42.2%、前回 45.2%、前々回 37.6%) をあげた人の割合が最も高く、以下、「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらおう」(今回 39.5%、前回 39.8%、前々回 40.5%)、「日本人の意識や考え方を外国人に理解してもらおう」(今回 30.9%、前回 32.8%、前々回 30.9%) などの割合が高い傾向が続いている。なお、「外国人との交流の機会を多くする」(今回 25.1%、前回 31.9%、前々回 27.7%) は前回、前々回よりも割合が減少している一方、「外国人のための人権相談や電話相談を充実させる」(今回 27.2%、前回 23.0%、前々回 22.1%) は割合が増加している。

図表 3-20 日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うこと



※1 今回(第10回)調査では、前回(第9回)調査まで「外国人が日本の文化や社会事情を理解する」だった選択肢を「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらおう」に変更しています。

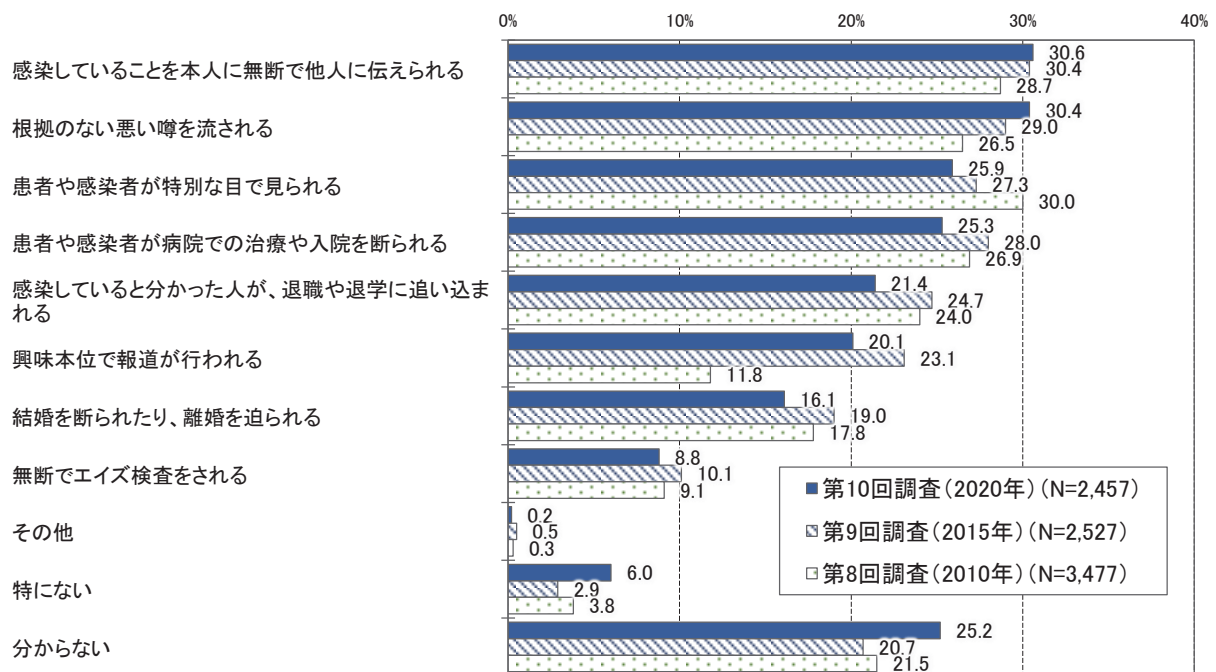
※2 今回(第10回)調査では、前回(第9回)調査まで「外国人が日本人の意識や考え方を理解する」だった選択肢を「日本人の意識や考え方を外国人に理解してもらおう」に変更しています。

⑨ エイズ患者やH I V感染者の人権について

1. エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うこと

エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うことについては、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様、「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」（今回 30.6%、前回 30.4%、前々回 28.7%）をあげた人の割合が最も高く、以下、「根拠のない悪い噂を流される」（今回 30.4%、前回 29.0%、前々回 26.5%）、「患者や感染者が特別な目で見られる」（今回 25.9%、前回 27.3%、前々回 30.0%）、「患者や感染者が病院での治療や入院を断られる」（今回 25.3%、前回 28.0%、前々回 26.9%）などの割合が高い傾向が続いている。なお、「分からない」（今回 25.2%、前回 20.7%、前々回 21.5%）と答えた人は前回、前々回よりも割合が増加している。

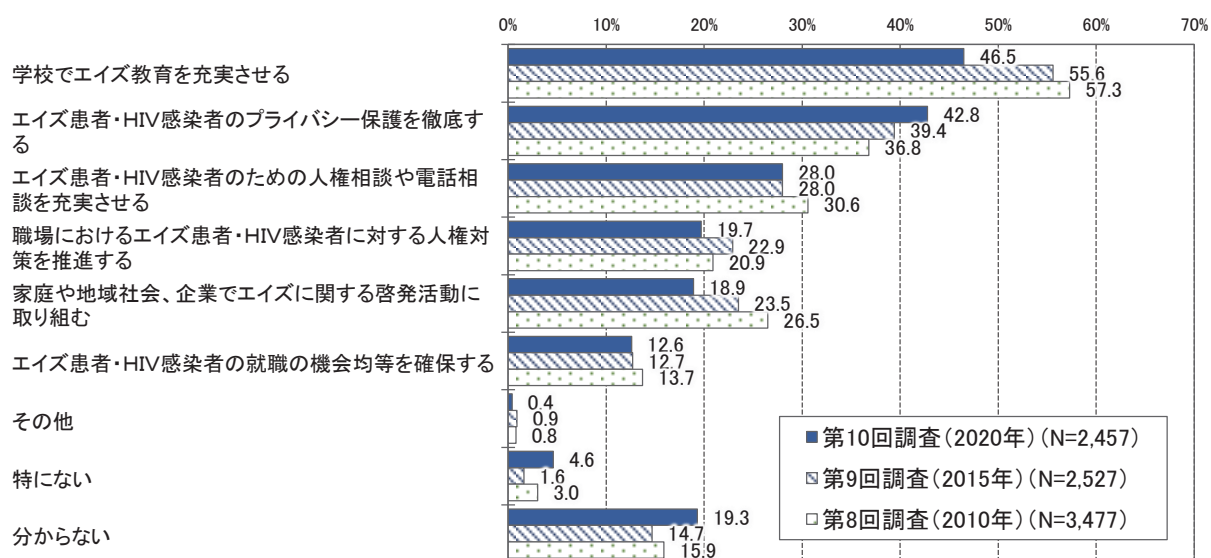
図表 3-21 エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うこと



2. エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うこと

エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うことについては、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様、「学校でエイズ教育を充実させる」（今回 46.5%、前回 55.6%、前々回 57.3%）と「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」（今回 42.8%、前回 39.4%、前々回 36.8%）の2項目が他に比べて割合が高い傾向が続いている。なお、「学校でエイズ教育を充実させる」は前回、前々回よりも割合が減少しているほか、「家庭や地域社会、企業でエイズに関する啓発活動に取り組む」（今回 18.9%、前回 23.5%、前々回 26.5%）も割合が若干減少している。一方で、「分からない」（今回 19.3%、前回 14.7%、前々回 15.9%）と答えた人は前回、前々回よりも割合が増加している。

図表 3-22 エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うこと

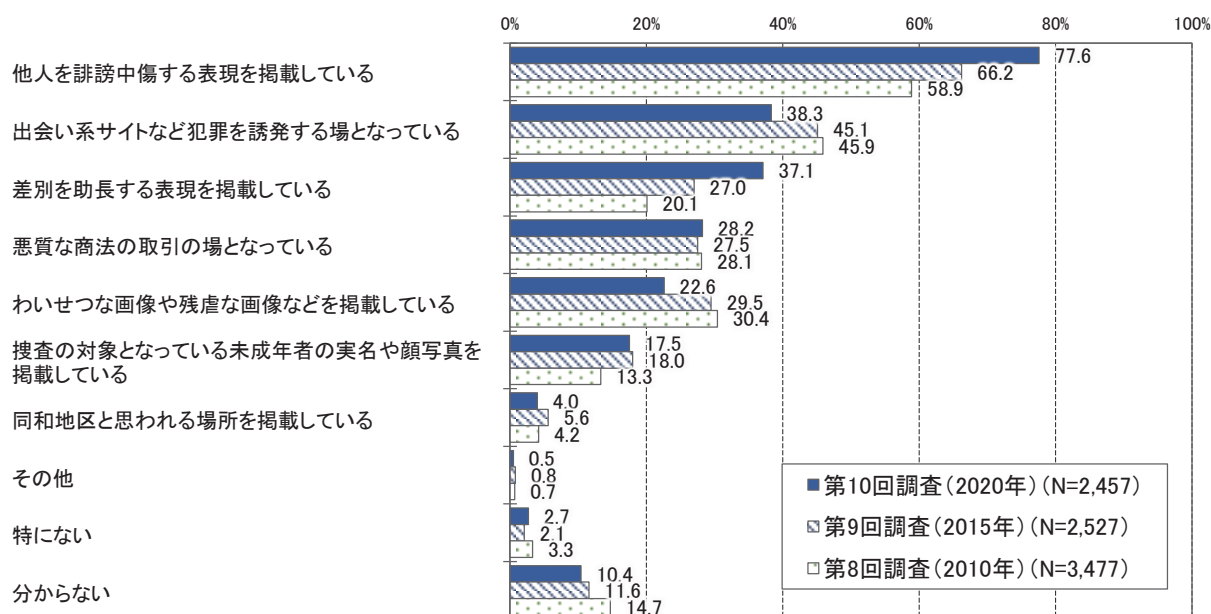


10 インターネットやSNSによる人権侵害について

1. インターネットやSNSに関して人権が尊重されていないと思うこと

インターネットやSNSに関しての人権が尊重されていないと思うことについては、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様、「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」（今回 77.6%、前回 66.2%、前々回 58.9%）をあげた人の割合が、他に比べて抜きん出ている傾向が続いている。なお、「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」のほか、「差別を助長する表現を掲載している」（今回 37.1%、前回 27.0%、前々回 20.1%）は前回、前々回よりも割合が増加している。一方、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」（今回 38.3%、前回 45.1%、前々回 45.9%）や「わいせつな画像や残虐な画像などを掲載している」（今回 22.6%、前回 29.5%、前々回 30.4%）などは割合が減少している。

図表 3-23 インターネットやSNSに関して人権が尊重されていないと思うこと

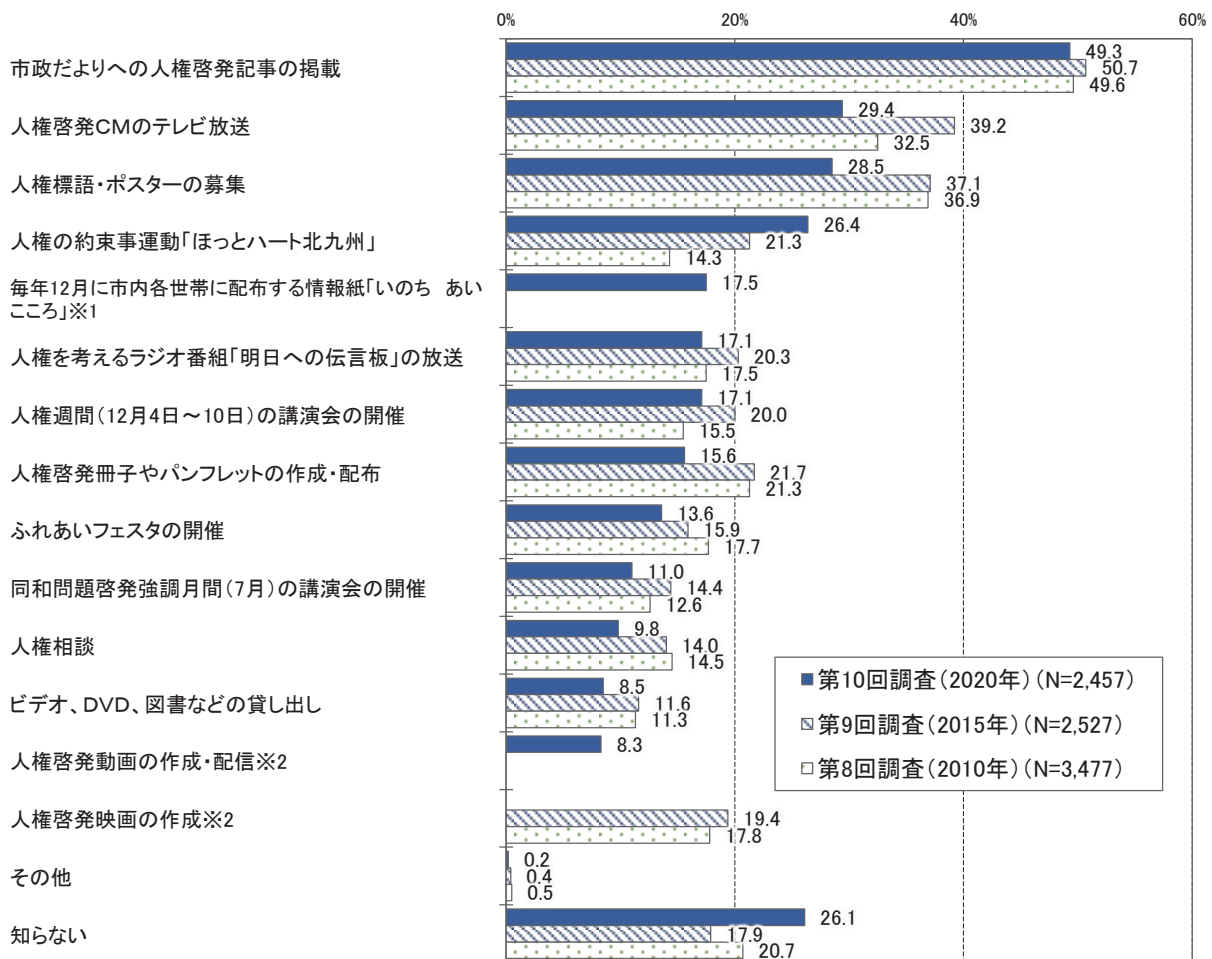


11 人権に関する学習や情報について

1. 市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況

市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況については、過去の調査結果と同様、「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」（今回 49.3%、前回 50.7%、前々回 49.6%）をあげた人の割合が、他に比べて抜きん出ている傾向が続いている。なお、「人権啓発CMのテレビ放送」（今回 29.4%、前回 39.2%、前々回 32.5%）や「人権標語・ポスターの募集」（今回 28.5%、前回 37.1%、前々回 36.9%）、「人権啓発冊子やパンフレットの作成・配布」（今回 15.6%、前回 21.7%、前々回 21.3%）などは前回、前々回よりも割合が減少しているが、「人権の約束事運動「ほっとハート北九州」」（今回 26.4%、前回 21.3%、前々回 14.3%）は増加している。一方、「知らない」（今回 26.1%、前回 17.9%、前々回 20.7%）と答えた人は前回、前々回よりも割合が増加している。

図表 3-24 市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況



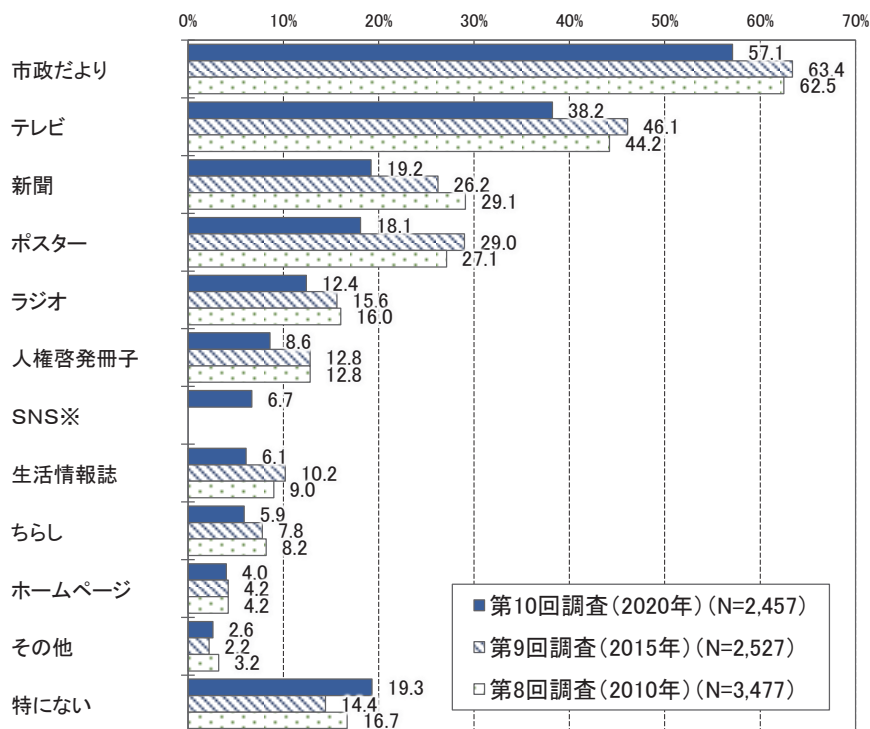
※1 今回(第10回)調査では、「毎年12月に市内各世帯に配布する情報紙「いのち あい ところ」」を新しく追加しています。

※2 今回(第10回)調査では、前回(第9回)調査まで「人権啓発映画の作成」だった選択肢を「人権啓発動画の作成・配信」に変更しています。

2. 市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路

市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路については、過去の調査結果と同様、「市政だより」(今回57.1%、前回63.4%、前々回62.5%)をあげた人の割合が、他に比べて抜きん出ているほか、「テレビ」(今回38.2%、前回46.1%、前々回44.2%)、「新聞」(今回19.2%、前回26.2%、前々回29.1%)、「ポスター」(今回18.1%、前回29.0%、前々回27.1%)などの割合が高くなっている傾向が続いている。なお、「特にない」(今回19.3%、前回14.4%、前々回16.7%)と答えた人は前回、前々回よりも割合が若干増加している。

図表 3-25 市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路



※ 今回(第10回)調査では、「SNS」を新しく追加しています。

3. 「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組み

「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組みについては、過去の調査結果と同様、「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」（今回 56.6%、前回 57.6%、前々回 52.8%）をあげた人の割合が最も高く、以下、「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」（今回 49.7%、前回 46.4%、前々回 47.1%）、「家庭の中で、人権を大事にする心を育てる」（今回 40.9%、前回 43.8%、前々回 44.1%）などの割合が高い傾向が続いている。

図表 3-26 「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組み

